

10月は男女共同参画推進月間です

家族のカタチ

男女共同参画社会は、男女が互いに人権を尊重し、「女性」や「男性」などといった性別のイメージにあてはめず、一人ひとりが持っている個性や能力を十分に発揮できる豊かな社会のことです。

今回の特集では、「家族のカタチ」に焦点をあてて、インタビューなどを通じて男女共同参画社会について紹介します。

☎ 市民活動推進課 ☎ 23-1299



あやか
彩華さん

りょうた
諒太さん

のぞむ
望さん



ちくご 筑後さんファミリーにインタビュー

平成24年に長門市に移住してきた筑後さんご夫婦。今は諒太さんを含めて3人の家族です。夫の筑後望さんは、どんぶり作家として活動しながら、子育てに強い信念をもち、市内の事業所で働きながら家族との時間を大切に生活しています。そんな筑後さんファミリーにお話を聴きました。

分けるより 認め支えて
まとまる社会

市では、令和4年3月に「ながと男女共同参画（第4次）計画」を策定し、長門市男女共同参画推進条例の理念に基づき、3つの基本目標を定め、男女共同参画社会実現に向けた取組を進めています。

■ 3つの基本目標

I 性別にかかわらず、あらゆる分野で活躍できるまちづくり

II 性別にとらわれない、共同参画意識の醸成

III 誰もが、安全・安心に暮らせる社会づくり

少しずつ変わる

長門市民の意識

令和2年に実施した市民アンケートでは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の問いに、「同感しない」と答えたのは全体の41.8%でした。前回の平成27年の調査では37.4%だったので4.4ポイント数値が上昇しています。

「男性は仕事、女性は家庭」というこれまでの価値観は、少しずつですが、確実に変わってきています。

長門市に引っ越して来たときの
ことを教えてください。

望さん▼民間企業で正社員として働いているときに、妻と出会い結婚しました。広島で仕事をしていたのですが、いずれは妻の実家の長門市に戻ることは決めていましたので、40歳で仕事を辞めて移住しました。

今は仕事や家事など、家族でどのようにして生活されていますか？

望さん▼私はパートタイムで働きながら子育てをしています。また、どんぐり作家として作品制作のほか、長門おもちゃ美術館や各所でワークショップなど



▲自宅の庭に手作りの池を設置。生き物がたくさん

の活動をしています。

彩華さん▼私は薬剤師としてフルタイムで働いています。

望さん▼家事の分担は特に決めていませんが、気づいたほうが家事をするようにしていますね。家事の時間がとれる私が掃除や洗濯をすることが多いです。

子育てのために、望さんはパートタイムで働くという決断をされたと聞きました。

望さん▼共働きでフルタイムで働く、自分たちが理想とする子育てが難しいと感じました。彩華さん▼子どもが生まれて、祖母など周りの人の支えもありましたが、私たち夫婦のもとに生まれてきてくれた子どもをしっかり見守りたいという思いで、お互い必死でした。

子育てに参加する父親の姿は、だんだん増えてきましたが苦勞などありましたか？

望さん▼子育てのために長門市でパートタイムで働ける仕事を探すときに苦勞しました。「なぜ男が働かないの？」や「パートは女性はいいけど男性はちよっと」と言われることが多々ありました。また、働いて



▲どんぐりの作品には諒太さんのアイデアも

いるときに子どもの体調不良で急に休んだこともあったんです。が、以前上司から「いつでも休めるとしたら、困るよ」と言われたことがあります。正直、ショックでした。

彩華さん▼20年以上、正社員で働いてきてつらい思いをすることもあったと思いますが、子どもの面倒をよくみてくれて本当に感謝しています。

望さん▼洗濯・掃除はもともと結婚する前から行っていました。しかし、料理はまったくしておらず、子育てのために料理もするようになりました。家族が円満に過ごせるよう、言わなくてもやろうというのを心が

けています。

さまざまな苦勞があったんですね。

望さん▼増えてきたとはいえず、男性が子育てや家事に取り組むのはまだまだ珍しいのではないかと感じています。

どんぐり作家として親子ワークショップを開催しているのですが、「母親だけでなく父親も子どもと一緒に参加してほしい」という気持ちがあるんです。育児はやらなきゃわからない。性別で役割分担を決めるのではなく、まずは家事・育児に関わって体験してほしいと思っています。やってみると、仕事より大変かもしれません。

最後に、子育てに励む望さんに諒太さんと彩華さんから一言お願いします。

諒太さん▼優しいし、いろんなことをしてくれます。一緒にゲームをしたり、虫の小屋を作ってくれたり、サッカーをしたりするのが楽しいです。彩華さん▼子どもの遊び方は、私にはまねできないものが多く、尊敬と感謝の思いです。身体に気をつけて長生きしてほしいです。

家事や育児は誰がしていますか？

日本の男性が家事・育児などに費やす無償労働時間は41分。世界の先進国と比べると5分の1程度。とても少ない時間です。男女の固定的な性別役割分担意識や無意識の偏見・思い込みは、いまだに日常生活に根強く残っています。

無意識の偏見への対策として、まずは認識することから始めることが重要です。

今一度、家庭や職場で、働き方、家事・育児のことについて話し合ってみるから始めてみましょう。

男女共同参画推進月間

パネル展を実施します

■会場 本庁、ラポールゆや

■期間 10/1(土)〜31(月)

DVのお悩み、ひとり抱えていませんか？

あなたが悩んでいるパートナーから受けているさまざまな暴力について、専門の相談員と一緒に考えます。どんな相談も気軽に相談ください。

閩市民活動推進課

☎ 23-1299

MAIL : soudan@city.nagato.lg.jp